



藤土木発 第 366号
平成20年10月15日

国土交通省道路局長 様

藤岡市長 新 井 利 明



今後の道路行政についての意見・要望について(回答)

標記について、別添のとおり回答いたします。

担当：都市建設部

0274-22-1211

自立した地域社会の醸成や産業の活性化を目指した幹線道路の整備と共に、今後の人口減少、高齢化を踏まえ既成市街地(既存市街地)の生活関連道路整備を車の両輪とした道路整備が必要であり、以下の改善すべき点、要望をする。

1. 市においても多くの道路公共施設(インフラ)のストックを抱え、今後の維持管理費の増大が予想されるため、維持管理事業の補助制度の拡充を願いたい。
2. 人口減少、高齢化社会、コンパクトシティー化を見据え、市街地内の道路整備を進め「歩いて暮らせるまちづくり」を目指すため、生活関連道路の補助制度の整備拡充を願いたい。
3. 道路事業の採択・実施に際し、目安となる数値指標、費用対効果(B/C比)について、現在の3指標では大都市部優先となることは明白である。地方部の喫緊の課題である防災や地域振興の一助となる観光などを視点とした指標の数値化の規準を制定してもらいたい。
4. シーリング予算や単年度会計を廃止し、整備の確実な進展と事業の平準化を行ってもらいたい。
5. 道路行政と観光行政とのタイアップにより、地方の「小さな観光」についても情報発信を充実してもらいたい。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②
群馬県藤岡市

○現状

1. 幹線道路

市北東部に関越自動車道と上信越自動車道が横断し、藤岡IC、藤岡JCTを有し、さらに北関東自動車道の全線開通を控え、わが国中央部の広域高速ネットワークの結節点として大きな発展が見込まれている。しかしながら、インターアクセス道路や市街地環状道路の整備がいまだ充実しているとはいえない。

2. 防災道路

本市南西部には美しい山や川など優れた自然環境を有しているが、その地形的制約により、中山間部の幹線道路は1本の路線のみであり、ネットワークが構築されず、更に幹線道路自体も雨量通行規制が100mm、120mmと脆弱である。

3. 都市内道路

本市の市道延長は、1160kmであるが、1、2級幹線市道を除くその他市道が1030kmで、その改良率は17.47%、舗装率51.33%と非常に低位にあり、その多くが既成市街地内に位置している。

○課題

地域の活性化、高速交通に対応した、インターアクセス道路や都市間幹線道路、市街地環状道路の整備を早急に実施する必要がある。

昨年の台風9号時には全ての規制路線が通行止めとなり、道路の脆弱さによる路肩決壊や、近年の荒廃した山腹からの土砂崩落により、孤立集落が発生しており、早急なネットワークの構築と安全な道路の整備が必要となっている。

今後の人口減少、高齢化、コンパクトシティへの移行等を踏まえた場合、既成市街地内の居住環境の向上は欠かせない課題であり、その大きな役割を担うものとして、道路の整備があると考えているが、従前の手法である区画整理事業は土地価格の低迷、自治体財政の悪化により困難となってきた。そのため、新たな手法の検討と早急な整備が求められている。

当市は本年「第4次藤岡総合計画(2008～2017)」を策定し、都市の目指す将来像を、市民一人一人がまちづくりに参画・協働し、住んでいる幸せを実感できるまちを目指して、「市民が創り輝く、やさしい藤岡～藤と冬桜が織りなす幸せ実感のまちづくり～」とした。

さらに、この将来像の実現を図るため、6つの基本施策「①安全・便利なふじおか、②快適なふじおか、③人に優しいふじおか、④心豊かなふじおか、⑤賑わうふじおか、⑥語らいのあるふじおか」を定めた。

元来、道路の果たす役割は、全ての社会資本の基本に位置付けられるものであるが、基本施策のうち道路に関する主な記述を以下に述べる。

まず「①安全・便利なふじおか」では、計画的な土地利用の推進と共に、市街地環境や居住環境の整備を進める。さらに、市の一体感をまず道路ネットワークの整備を進め、わが国中央部の交通結節点地域にふさわしい機能を高める基盤づくりを進める。

次に「③人に優しいふじおか」では、支えあいを実感できるまちとしてバリアフリー社会の実現のための道路整備を進める。

次に「⑤賑わうふじおか」では、農、工、商、サービス業の活性化に資する道路整備を進めると共に、豊かな自然や歴史的遺産を利用した、観光・交流活動に資する道路整備を進める。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④
群馬県藤岡市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	(主)前橋長瀬線バイパス整備事業 L=1,550m W=13.0(25.0)m C=3,540,000千円 藤岡市鮎川、上大塚地内	本路線は平成18年に合併した旧鬼石町との一体感の醸成と、奥多野地域からの藤岡ICへのアクセス向上に大きく寄与することが期待される。	県施工、現在実施中 19年度1期区間供用開始 L=700m
・都市交通の快適性、利便性の向上	藤岡都市計画道路・北部環状線(第1期)街路事業 L=510m W=25m C=1,300,000千円 藤岡市中栗須地内	都市内通過交通の排除と藤岡ICへのアクセス向上が期待される。	市施工、未実施 22年度事業着手予定